

「今月の1枚」



写真1 ハリモミの葉と枝。葉が枝に接している部分（葉枕）が隆起しているのがトウヒ属の証し。



写真2 ハリモミの球果。アカマツよりも細長く、モミのようにバラバラにならない。



写真3 ハリモミの樹形。大木になる。一見モミのようだが、樹皮が全く異なる。

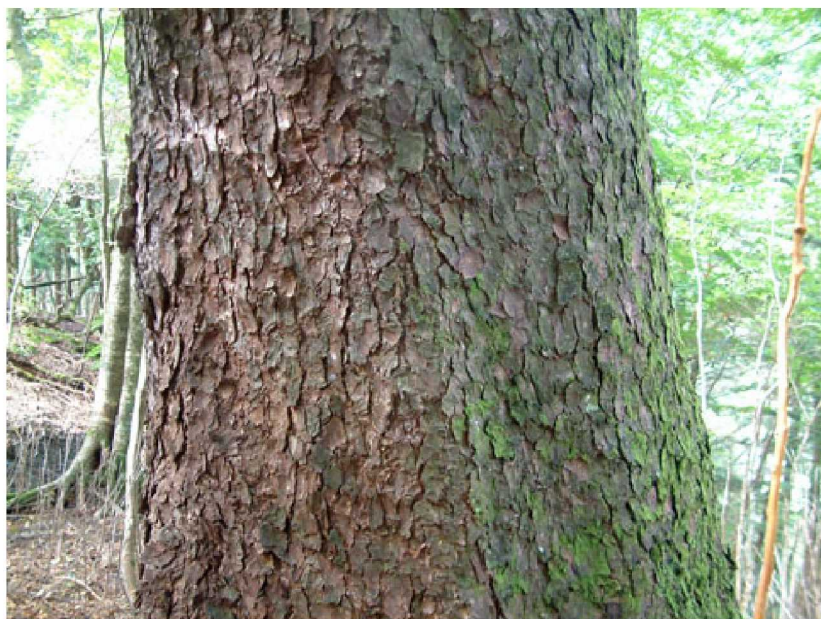


写真4 ハリモミの樹皮。茶褐色～灰褐色で不規則に割れてはがれる。

ハリモミ （マツ科トウヒ属） *Picea polita*

和名はモミという名前がついていますが、分類学的には四国で唯一現存するトウヒ属の仲間です。その名のとおり葉は堅く先はすどく尖り、握ると痛いです。

氷河期の遺存種で本州、四国、九州に隔離分布し、四国では剣山系、石鎚山系、篠山などに生えています。大きくなると胸高直径1m、樹高30mを超える大木になります。

四国にはハリモミの他にもトガサワラやシラベなど遺存的に分布する針葉樹が生存しています。

(写真・文：酒井 敦 2012年10月12日高知県香美市物部にて撮影)

(No.240 2013.9.3 掲載)